

入中3年人権だよ

徳島市 八万中学校
3年生 第9号
2021年 5月28日
編集・責 吉成正士

今回は、人権作文の取り組みの3日目に読んでもらった、在日コリアン問題について書かれた生徒作文の感想についてです。みなさんにすれば、K-POPとか、韓流ドラマや韓流映画になじみがあるので、「差別？何言ってるの？」という感じかもしれませんが、あるところには、今も根強く残っている差別問題です。

■自分も感想を書くとき、「また感想か」や「めんどくさい」などと思う時がありました。しかし2・3年生になっていくと、人権学習や集会などが多くなり、人権などに考えさせられる時間が多くなってくると、なんだか心に響いてくるようなお話などがたくさんありました。

これからの人権学習も、悲しんでいる人の気持ちを考えて学習していきたいと思いました。 FY

◆ ◆ ◆
■私も最初は人権についてあまり知らなかったし、小学校で人権学習したりしても、「そんなことがあったんだ」と他人事で終わらせていたし、つい最近までは、人権について勉強しないでいいんじゃないかなって思っていました。勉強しなければ勝手になくなるんじゃないかと思っていました。でもそれは間違いでした。勉強しないとそのことで苦しんでいる人の気持ちが分からないし、そんな人たちがいるのにも気づきませんでした。KM

「心のヒダにふれる」という言い方をすることがあります。「ヒダ」とは、「スカートなど衣服の折り目」のことですが、「感性」という意味もあります。つまり、「心の感性にふれる」ということです。「心に響く」とか、「人の気持ちが分かる」は、まさに、「心のヒダにふれる」ということです。

人権について、「知る」ことは大切ですが、同等かそれ以上に、この「感性」は大切です。つまり頭で分かるだけではなく、心に響くことが大切だということです。心に強く響いたことは、忘れません。いくつになっても覚えているものです。だから、感動するような人権学習をすることです。感動するような学校生活を送ることです。その感動が、みなさんの絆をつくり、卒業がより感動的になっていくのです。

■この人権作文を読んで、仲間と心から信頼し合えていることは、本当に素晴らしいと思いました。最後の段落にある、「どんなときも信じ合える仲間がいれば、失敗したって怖くない」という言葉も、本当にその通りだと思いました。

この作文を読んで私は、もっと周り人間関係を深めていくべきだなと改めて思いました。残り少ないですが、今のクラスメイトと信頼し合える関係になれたらいいなと思いました。

◆ ◆ ◆
■自分も人権の学習で、人の意見を真似したりしているかもしれないと改めて気づきました。これからは自分が本当に思っていることを感想などには書きたいと思

います。

自分は発表が得意ではないので、人前でこういう身内の話をしたりするのは緊張するし、みんなの反応を見たりすると思います。でも今のクラスは雰囲気がいいので、みんな分かってくれると信じています。 HR

そう願うなら、そう信じるなら、まず自分から一步を踏み出すこと。先生に頼るのではなく、誰かに頼るのでもなく、自分から一步を踏み出すことです。

そして、その一步を踏み出した友がいれば、絶対にひとりにしないこと。頑張った友を決してひとりにしないこと。そうやってできたつながりの連鎖が、みんなの絆をつなげ、強くしてくれます。

「絆」という字は、「糸の半分」と書きます。半分は相手側にありますが、半分は自分側にあるということです。その自分側の糸を、しっかりと握りしめることで、絆をつくるのは、あなたのその手です。

■自分も人権の感想文を書くとき、真面目に書いているのですが、読み直すといつも、きれいごとを書いているように見えます。それは人権のことをもっと深く考えようとしてないからだと思います。

これからまずは、人の考えや感想を一生懸命に聞くことから始め、自分の考えも上手く伝えられるようになってほしいなと思います。 ST

上手く伝えなくていいです。上手く伝えてもいいですが、上手く伝えなくても構いません。上手く伝えようとすると逆に、大切なことが伝わらなかったりするからです。

ある研究で、言葉で伝わる内容は約3割と言われてます。残りの約7割は、話す人の表情だったり、雰囲気だったり、身振り手振りだったりして伝わるのだそうです。つまり、上手く伝えられない、そのたどたどしい間合いや、緊張した表情、こぼれる涙、そういったものがあって初めて、きちんと伝わるのです。だから、上手く伝えようなんて思わないでください。自分らしく、自分のありのままを伝えれば、それでいいのです。

■この人権作文を読んで、僕も中学2年生になるまでは、人権の学習を、「ただきれい事を言っているだけちゃうん？」という感情になったことが何回もありました。しかし最近になってからは、人権学習がいかに大切なことかを知ることができたと思います。人権学習を深めていくうちに、この筆者と同じで、「みんなつらいことや悲しみを持って生きている」ということが分かってきました。僕の周囲には、特に家庭環境で困ってる人や、差別の対象になるような人はいません。だからといって、人権学習を他人事のように思って、何も考えずに終わるのは間違っていると思います。これからは、自分の意見をしっかり書き留めて、発表する機会があればいい

きたいです。 FK

◆ ◆ ◆
■この作文を読んで、ハッとさせられました。前までの私は、実際他人事のようにしかこの問題を捉えていなくて、感想も心から思ったことを書けていませんでした。ですが、この筆者は、「語り合い学習」を通して、自分自身の話を打ち明けられるようになった、というのが本当に素晴らしいと思いました。なんだか自分も変われるような気がしました。これからも、この作文で吸収したことを生かし、本心で語り合えるようになりたいです。 TA

◆ ◆ ◆
■誰にでも隠したいことや、どう思われるのか怖いことがあると思います。この作文の中にもあったように、その「思い」を誰かに話してみることで、みんなの意見が変わったり、他の捉え方が見つかったり、自分の心が軽くなる気がします。

私も最近ニュースで男女差別について取りあげられていたので、気になり見てみました。そこで、悪意がなくとも人を差別してしまっていることがあると気づきました。ニュースの中で話し合っている人がいたからこそ気づくことができたし、家族とも意見を出し合うことができました。「語り合い」からは、自分の本当の想いや、お互いを理解しようという関係性が生まれると実感したので、とても大切なんだと思いました。 SA

「本音を語る」。それがないと、自分の周りに、家庭環境で悩んでる人や差別の対象になる人がいるとは気づけません。ということは、「本音を語る」ことがない限り、そういう人は「いない」ということになってしまいます。でも本当にそうかどうかは、分かりません。本当はいるのに、「いない」ことになってるだけかもしれません。知らないだけかもしれません。それで本当の仲間づくりになるのでしょうか。

日々の生活で、様々な悩みや痛み、つらさや悲しさを抱えているみなさんは、実は多くいます。でも、そんなことは人に言うことではないとか、恥ずかしくて言えないとか、怖くて言えないとか思って、言えてないだけです。でも、筆者のように人に伝えることで、自分が変わったり、周囲も良い方向に変わったりするのです。

信じていれば、言えるはず。あとは、周囲を、自分を信じ抜けるかどうかです。自分を変えるのは、自分です。

■僕も小学生の頃の人権学習などの道徳の授業では、だいたいは人の話など聞いてなかったけど、中学生になると深くなり、自分にはないとても新鮮な意見や発表を聞いて知ることができ、自分の中の想像できる大きさがさらに大きくなったような気がしました。 UY

◆ ◆ ◆
■今回の作文の人が言うように、人権学習で、その時までの自分の考え方が大きく変わってしまうということが私にもありました。それからいろいろな目線で見てみるというのも学びました。

私は小学校のときまで、人権学習は、ただ話を聞くだけの本当につまらない学習時間だと思っていました。しかし、中学校での人権学習は、とても考えさせられるものだったり、差別などを受けた人の話を聞くことができ

たりしたので、私は人権学習はとても興味深いものだと思えるようになりました。

作文の作者の人が、祖父が韓国人で、純粋な日本人ではないと言っていたって、全く悪く思いません。むしろ、話をもっと聞いてみたいです。きっと私以外の人だって、そう思う人がいるはずです。私はこれからも、もっと人権について学習したいと思っています。 YM

自分の頭で考えることは大切ですが、自分の中だけで結論を出すことには、怖さがあります。多様な見方や考え方、視点がないから。多様な見方をすれば、自分の考え方が、まるっきりひっくり返ってしまうこともあるものです。そういった点においても、やはり「語り合う」こと、交流することだと思います。

ある研究で、効果が薄く、記憶に残りにくい人権学習は、話を聴いたり映画を観たりして感想を書くだけの、受け身の学習だと言われています。

一方で、効果が高く、記憶に残りやすい人権学習は、能動的な人権学習だそうです。どこかに行くとか、何かをすとか、主体的に発言をすとか、主体的に聴くとか。義務教育もあとわずか。あとは、みなさんが主体的に学ぶ以外、道はありません。そんな、自ら歩みを進めていく力はあるのでしょうか。

■人権学習や自分の考えをもつ場面では、自分の中だけで答えを出すだけでなく、他の人の意見を聞いたり、話し合ったりすることは重要なことだと思いました。自分の意見や思いについて考えるだけでなく、その意見を人に聞いてもらうことで、自分に自信がもてたり、もう一度考え直してみることができると思うからです。

話す側も勇気を出して話すことが必要ですが、聞く側もその人のことを理解しようとして話を聞くことがとても大事なのだと思いました。そのような場が、より学習を深められるのだと思います。

作文の中に、「自分の話を真剣に聞いてくれる人がいれば、つらいことでも何でも打ち明けられそうな気がする」と書かれていて、筆者が最初持っていた考えから大きく変わり、成長している様子がとてもかっこいいと感じました。私も自分をより良く成長させられるように、人権学習などに取り組んでいこうと思いました。 SK

耳を傾けて聴くことを、「傾聴」と言います。似たような表現として私はよく、「話は目で聴く」とか、「注目しましょう」とか言うことがあります。いずれにしても、「聴いてくれている」と感じることは、発言した人の自信につながるし、聴いてる側には、「人を大切に想う」ということにつながっていくのだと思います。

そして何より、カッコイイですよ、勇気を出して一歩を踏み出そうとする人は。そして、さすがしい。そんな懸命な姿は、感動的ですからあります。でも本人は決して、「感動させてやろう」と思ってやってるわけではないはず。ただただ懸命に、真剣に頑張ってるだけです。そのひたむきな姿が、見る人の胸を打つのだと思います。

体育祭、総体、人は真剣勝負の舞台を経験すればするほど、大きく成長します。そんな真剣勝負に、自ら進んで挑んでいくことです。がんばれ！みんな！